

は　じ　め　に

この報告書は前年度の研究に引き続いて行われた昭和 60 年度の調査研究の結果を報告するものである。
その内容は主として次の部分からなっている。

1. 東京都区部における住宅市街地とその地区環境上の問題
2. 住宅市街地の整備手法
3. 住宅市街地更新の可能性と展望

前年度の研究においては、東京都区部の住宅市街地の現況を明らかにすることに重点をおいて行ったが、本年度は地区の環境を構成する要素を基礎的要素と充足的要素に分け、基礎的要素を基盤と上物に分けて町丁目単位に評価を行い、問題地区を抽出した。その結果、基盤については約 40 %，上物については約 30 % の問題地区が存在し、これらを合わせると約 50 % の地区が健全な市街地としては何らかの欠陥をもつことが明らかとなった。

次に住宅市街地の整備に関する現行制度を整理し、上記問題地区への適用の可能性を検討した。

最後に今後の展望として地区整備基本計画の必要性とその内容の骨子について提言を行った。

因みに、昭和 60 年度報告の内容は以下に掲げる東京理科大学建築学科の修士論文ならびに卒業研究として実施したものであることを付記する。

- (1) 修士論文　大野田　充廣

「大都市における住宅市街地整備の制度と適用条件（東京都区部について）」

- (2) 卒業研究　谷口眞志，安達　功，清水悟郎

「東京都区分における住宅市街地更新の課題と展望」

昭和 61 年 3 月 31 日